

ここでは、宮崎県ゆかりの作家の作品を紹介します。中でも、宮崎県を代表する4名の作家は、年間を通して展示しています。

日本画家では、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門と、秀麗な美人画で広く知られていた益田玉城が挙げられます。一方洋画家では、塩月桃甫が台湾で美術の振興に努めるとともに、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追求しました。また、力強い筆遣いで生命力あふれる女性像を描いた山田新一は中央画壇で活躍しました。

今回は、塩月桃甫や山田新一をはじめ、郷土作家が描いた宮崎県の風景を中心に展示します。また、置県140年に合わせ、昭和7（1932）年に完成した現在の県庁舎の建設記念として制作された、山元春挙や小早川秋聲らによる作品を紹介します。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	戸高 秀夫	1895～1983	曇り日の平和台から	不明	24.1×33.3	油彩
2	有田 四郎	1885～1946	韓国岳遠望	不明	23.4×35.4	水墨，水彩
3	有田 四郎	1885～1946	八紘台遠望	不明	22.8×33.3	水墨，水彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	子どものくに風景	1951（昭和26）	45.5×52.9	油彩
5	塩月 桃甫	1886～1954	息軒屋敷	1950（昭和25）	37.9×45.5	油彩
6	塩月 桃甫	1886～1954	少女	1950（昭和25）	33.4×24.3	油彩
7	山田 新一	1899～1991	夏の装	1953（昭和28）	130.2×97.2	油彩
8	山田 新一	1899～1991	鶴戸神宮	1956（昭和31）	37.3×45.5	油彩
9	小野 彦三郎	1912～1971	岬	1961（昭和36）	162.3×97.3	油彩
10	吉田 敏	1915～1965	御池	1965（昭和40）	54.4×77.0	水彩
11	益田 玉城	1881～1955	青嶋	不明	122.9×40.8	日本画
12	山内 多門	1878～1932	鶴図	1908（明治41）	各171.2×115.7	日本画
13	山内 多門	1878～1932	十六羅漢之図	1904（明治37）	各127.3×56.3	日本画
14	小早川 秋聲	1889～1974	祖国日向所見	不明	右180.0×42.0 中186.2×95.4 左179.8×42.0	日本画
15	山元 春挙	1871～1933	霧島連山	1932（昭和7）頃	101.8×145.0	日本画
16	山元 春挙	1871～1933	高千穂峡 ※	1932（昭和7）	162.0×72.7	日本画
17	益田 玉城	1881～1955	御池と韓国岳	1932（昭和7）頃	114.5×211.5	日本画

※10/30～12/5は、「旅する美術館」出品のため展示をお休みします。